



戸沢小学校相撲大会



議会だより

NO.74
平成24年7月15日

- ◎ 6月定例会
平成24年度補正予算・条例改正・請願審査等 …… p2～p3
- ◎ 一般質問 …… p4～p8
- ◎ 議会報告会 …… p9
- ◎ 議会活動・審議結果報告 …… p10～p11
- ◎ 市民の声・ぎかいウオッチング …… p12

むらやま「議会だより」は健全で開かれた議会を実現するために、情報の開示を主目的とし、議員による編集を経て年4回発行しています。

平成24年第2回6月定例会

平成24年度一般会計補正予算

1億396万1千円 追加補正

総額 114億4千663万9千円

国民健康保険税の税率を一部改正

平成24年第2回定例会は、6月1日から18日までの18日間の日程で開かれました。

上程された議案は、条例3件、補正予算2件、市税条例の一部改正及び暴風、豪雪による災害関連予算に係る専決処分の承認2件であります。

このうち、条例関係議案は、所管委員会に付託され、慎重に審議されました。

この結果、いずれも原案のとおり可決・承認されました。

また、村山市土地開発公社及び村山市余暇開発公社の経営状況が報告されました。

条例関係の主な内容は、平成27年度より国保の広域化に伴い、県単位の共同事業がスタートすることから、国民健康保険事業会計の赤字状況を考慮し、一人当たりの税額を近隣自治体の最安レベルにする方針の基に、平成24年度分の国民健康保険税から、均等割及び所得割のみ税率を引き上げるための市税条例の一部を改正するものであります。

また、補正予算の主な内容は、国の補助金決定による介護基盤緊急整備事業費の補正、今年度から三カ年事業として予定する公共施設等再生可能エネルギー整備事業費の補正などで、詳細は、表1のとおりです。

表1

主な補正予算額

(単位：千円)

1. 市民協働参画費（一般コミュニティ助成事業）	2,500
2. 老人福祉費 介護施設（グループホーム、小規模多機能型居宅介護事業所）	32,400
3. 環境衛生費（公共施設等再生可能エネルギー整備事業）	14,000
平成24年度は、葉山中学校に太陽光パネルなど設置（災害時の対応）	
4. 労働諸費（緊急雇用対策事業）	3,600
5. 農業振興費（園芸振興事業・畜産振興事業）	3,779
6. 水田農業経営確立対策事業費（戸別所得補償経営安定推進事業）	1,310
7. 道路維持管理費（測量設計委託料）	3,000

専決処分の承認

▼村山市市税条例の一部を改正する条例の専決処分の承認について

（地方税法の一部改正に伴い、固定資産税及び都市計画税に関する負担調整の継続措置などについて議会を招集する暇がないと認め専決処分したものの）

▼平成24年度一般会計補正予算（第1号）

（今年4月1日発生の暴風によるハウスの農林被害などに係る予算措置について議会を招集する暇がないと認め専決処分したものの）

条例関係

▼村山市印鑑条例等の一部を改正する条例について（外国人住民の利便の増進及び行政の合理化を目的として住民基本台帳法の一部が改正され、外国人住民を住民基本台帳

の対象に加えられたことに伴い、関係条例を整備する改正)

▼村山市市税条例の一部を改正する条例について(医療費の増加及び税収入の減少による財源不足を補い、安定した医療の提供を確保するため国民健康保険税率の一部を引き上げるための改正)

▼村山市福祉医療費の支給に関する条例の一部を改正する条例について

景気低迷や雇用環境の悪化など、依然として厳しい社会経済状況に加えて、東日本大震災の影響もあり、問合せはあったものの分譲契約までは至りませんでした。

平成23年度土地開発公社事業状況報告

しかし、早期処分を目指す結果、楯岡鶴ヶ町住宅団地の残地2区画が契約に至り、36区画全区画を完売することができました。

河島山ニュータウンは、平成21年度に分譲単価の

楯岡グリーンタウンについては、全体の分譲区画数38区画のうち31区画

平成23年度は、3月11日の東日本大震災直後という厳しい条件の中、クアハウス基点、道の駅むらやま、レストハウス東沢について、3年間の指定管理を受けた2年目として、事業がスタートしました。

また、法改正に伴い、間近に迫った新法人への移行については、財団法人村山市余暇開発公社公益法人移行検討委員会の報告を受け、実務検討委

委員会を設置し平成25年4月移行に向け準備が本格化しました。長年の懸案事項であった村山市によるクアハウス基点の大浴場の新築も具体化したことを踏まえ、これまでの「おもてなしの心」「お客様の目線に立ったサービス」「心のもったお出迎え、お見送り」を継承し、今後もお一層のサービス向上に努めることとしております。

2団地、残り18区画

請願

▼脳脊髄液減少症の医療に関する請願書(採択)
▼村山総合支庁北庁舎を充実し、地域づくりの拠点として機能強化を図

るよう県に対して「意見書」の提出を求める請願書(採択)
▼脱原発社会に向けたエネルギー政策の転換を求める意見書の提出に関する件(不採択)
▼村山総合支庁北庁舎の北村山農村整備課統合解消を求める請願(採択)
▼消費税増税に反対する意見書の提出を求める請願(再度継続審査)

▼脳脊髄液減少症の医療に関する意見書
▼村山総合支庁北庁舎の総合計画の見直しと機能充実を求める意見書
▼基地対策予算の増額等を求める意見書
▼国民健康保険制度における国庫負担の増額を求める意見書
▼村山市の行う公契約に関する要望書

議員発議

東日本大震災の影響を乗り切る

平成23年度財団法人村山市余暇開発公社経営状況報告

全国市議会議長会表彰



柴田好美 議員
正副議長在職4年

5月23日、東京都で開催された全国市議会議長会第88回定期総会において、本市議会の柴田好美議員が表彰されました。

になりました。

燃料不足、計画停電、自粛ムードなど不安材料はあったが、平成23年度余暇公社全体としては当期利益909万円余となり、当期末未処分利益金は、2千788万円余となりました。

また、法改正に伴い、間近に迫った新法人への移行については、財団法人村山市余暇開発公社公益法人移行検討委員会の報告を受け、実務検討委

ここが聞きたい！ 一般質問 Q&A

本定例会の一般質問は
6月7日・8日に9人の議員が行いました。
質問と答弁の内容を要約してお知らせします。

※一般質問のQ & Aは議員の原稿をそのまま掲載しています。



長南 誠議員
随意契約について

Q クアハウス基点耐震診断・リニューアル

工事基本設計は指名競争入札、大浴場棟新築工事詳細基本設計、浴場棟実設計は随意契約で行われた。なぜ競争入札が出来ないのか。随意契約に至った理由を伺いたい。

A 市は原則競争入札。今回は地方自治法施行令162条の2第1項6号に基づき指名審査会で検討した結果、随意契約が適当と認めた。入札の具体例として、現に契約履行中の業者に引き続き実施させる場合、期間の短縮、経費の削減等確保でき有利と認め随意契約に該当した。今後も随意契約を含めて公平性、透明性を保持した適切な入札契約事務を進める。

Q 改訂学習指導要領で武道が必修化された

村山市では柔道を選択したが、事故の発生率が高

いと危惧する。選択の理由、指導体制、事故防止対策を伺いたい。

A これまで選択制の中で柔道を指導してきた実績があり、また衛生上の問題、準備、後片づけ等の条件を考慮し今回の必修科目も柔道にした。

保健体育教員が主に指導するが、有段者であり指導は出来る。事故防止については学習段階や個人差を踏まえ、段階的な指導を行う等、安全の確保に十分留意した指導計画が出来ている。



クアハウス基点 新浴場完成予想図



通学路の安全強化対策は 井澤秋雄 議員

Q 情報化、国際化、著しく進む少子高齢化など教育を取り巻く社会環境のなかで教育の振興は極めて重要である。教育基本法の定めるところにより村山市の特色ある教育振興基本計画を策定すべきでないか。

A 村山市第5次計画策定の機会を促えて、これに併せて教育独自の

基本計画も検討していきたい。

Q このほど、集団登校児童が交通事故に遭う事例が見られるが通学路の危険箇所の点検、安全強化対策はどう考えるか。

A 通学路に関する要綱に基づいて調査を実施したところ、危険箇所が11箇所あることがわ



通学風景

かった。今後、道路管理者、警察など関係機関と協議を進め対策を考えていきたい。

Q 技を生かしたものでづくり、地域の特色を生かしたものでづくり、美しいものでづくりが評価を呼んでおり、人づくり、地域づくりのためにも「ものづくり大賞」制度を設けるなど、ものづくりを更に奨励してはどうか。

A 村山市のものづくりについては、レベルの高いものと認識している。

県の制度とタイアップしながら更に支援していきたい。大手企業関連の部品も製作しており、技術も高いと思っている。県の振興公社専門指導員の指導、更には工業技術センターとの共同研究開発に力を入れていきたい。



村山市の情報通信技術と問題点 布川淳一 議員

Q 村山市の小中学校に電子黒板の導入を願うが、その前に市内小学校の教室のテレビの大半が未だアナログだ。早急にデジタル化すべきだ。教育現場の器材については、子どもたちのために最先端の技術を導入して欲しい。

A デジタルテレビは現場の意見を聞きながら少しずつ導入していく。電子黒板については、市内には5台導入されている。様々な利点もあるがデメリットもある。日進月歩の技術なので現在は様子を見ている。

庭でのネット利用に関して、保護者に対する啓蒙を願う。

A 携帯所有率は小学校では8.9%、中学校では17%だ。またフィルタリングをしている割合は半数程度だ。保護者にはネット犯罪などの実例をあげて啓蒙をしている。

Q 村山市のH P(ホームページ)のリニューアルについて。市民の目線に立ったH Pを作るべきだ。現在の進捗状況は。

A 11月を目途に新しいH Pを構築する。誰でも簡単に検索出来るシステムにし、動画なども配信する。また単に見てもうだけのH Pではなく、積極的に情報発信するよう心掛ける。

Q ネット犯罪が問題になってきているが子ども達の携帯所有率の調査結果はどうなっているのか。また家



北村山視聴覚センターの電子黒板



クアハウス基点大規模改修後の 旧温泉施設の活用は

佐藤敏彦 議員



新たな活用が検討されるクアハウス温泉施設

たい。太陽光パネルの補助事業も、昨年まで63件設置している。②県の協力を得て、道の駅などに設置する方針だ。

Q 市所有施設の維持、更新について。①現状と今後の考え方は。②基金の活用方法と、今後の考えは。

A ①建物は耐震化、橋などは長寿命化、水道管は老朽化の更新など行っており、今後も更新時期を調査しながら、計画的に進めて行く。②基金は、平成24年度末で1億2千万円の積立となる予定だ。②大規模な公共施設の整備に補助事業を活用しながら進める。

Q クアハウス基点大規模改修後の旧温泉施設の活用は。

A 屋内運動施設の活用方法を含め利活用を検討する。

Q 環境都市「村山」の推進について。①これまででの事業の推進状況と評価について、②電気自動車専用の急速充電器設置の考えはないか。

設置して市民の協力を得ながら進めている。具体的には果樹剪定枝などを活用した木質バイオマス発電を実施。若い果樹農家の皆さんからも深い理解を得られている。今後環境の付加価値を付けた農産物の生産にもつなげ



公契約のあり方について

長谷川 元 議員

Q 国保加入者のがん検診の対象年齢が35歳まで引き下げられたが、乳がん検診のみ40歳以上のままだ。早期受診が早期発見につながり、ひいては高額療養費の抑制につながり国保会計の健全化にも貢献できると考えるがどうか。

A 北村山公立病院では現在AICS（アミノインデックス）検査の導入を検討している。当局としても様々な検査の有効性等を調査検討して、メリットデメリットを総合的に判断して検討する。

Q クアハウス基点の大浴場新築工事に関わる契約に関して伺う。当初全体の建物の耐震診断とリニューアル工事の基本設計ということで指名競争入札を行った。しかしその後大浴場のみを取り出して新築することになったが、その基本設計



クアハウス基点新浴場模型

は随意契約で行った。本来であれば新規の工事になる大浴場新築工事の設計は競争入札を行うべきではないのか。基本設計の後に行う実施設計も同一業者が随意契約で契約をしたが、地方自治法にある通り、基本は全て競争入札に附すべきであり

A 情報公開は近隣市町契約にも問題はない。

余程の理由がなければ随意契約はできないはずだ。きちんとした説明責任を果たすべきと考えるが、執行部の考えは。



国保税値上げ中止を求める

中里芳之 議員

Q 国保への国庫支出割合はかつての半分に減らされてきた。同時に、不況と構造改革で国保世帯の貧困化がすすみ、バブル崩壊直前から平均所得が100万円落ち込んだ。しかし国保税は高騰している。低所得者が多数の国保は、もともと適切な国庫・公費負担がなければ社会保障制度として成り立たない。さらなる国保税引き上げで、加入者は安心して医療が受けられなくなる。(1)一般会計からの年間5千万円の法

定外繰り入れて国保税引き上げ中止を求める。(2)上げ幅も大きく一般会計から初めての法定外繰り入れもあるし、将来の広域化を前提としている。よって市民に事前に説明すべきではなかったか。

Q 静岡県島田市も震災がれきの受け入れを始めたが、試験焼却の結果から、バグフィルターでのセシウム137の除去率は65%にすぎず、残り35%は大気中に放出されたといわれている。アシストやグリーンパワーの施設外に放射性物質が放出されていないと断言できるか。

Q ①認知症の早期発見と介護予防対策について②社会福祉協議会で行っている外出支援サービス事業の展開について③生活援助の時間短縮が利用者の立場に立っているのかを問う。

Q 4月から食品の放射能の基準値が変わり生産者も消費者も注目。市として農産物の安全にどのように対処しているのか。また、両者の安全・安心を考えた時災害廃棄物を受け入れている

Q 脳脊髄液減少症の医療に関する請願が提出されているが、市として実態を把握しているのか。



認知症の早期発見と対策を

川田律子 議員



6月21日午前11時グリーンパワー正面より西へ100m道路脇

Q 4月から食品の放射能の基準値が変わり生産者も消費者も注目。市として農産物の安全にどのように対処しているのか。また、両者の安全・安心を考えた時災害廃棄物を受け入れている



4月からスタートした外出支援サービス事業



がんばる消防団 大山正弘 議員



行進する婦人消防団員

Q 東日本大震災を踏まえて本市での停電や電話不通時の対策は。

A 災害における最も有効な情報の手段は無線通信であるが、アナログ無線は一つの周波数で情報を共有できる利点はあるが、同時運用となる

ので混信が発生する弱点もある。

Q 市内8地区の小型ポンプ積載車になぜ無線機がないのか。

A 平成28年6月1日に全国一斉にデジタル無線化に向けて、大きな転換期であり、本市の小

型ポンプ積載車についても、通信手段の確保のため無線機を検討中である。

Q 村山市消防団の現状と課題について。

A 現在810名に対し804名と減少にあり、生活形態の都市型化、少子化職員の多様化等が絡んでおり官民一体化が必要と考え、女性消防団員の登用、事業所の推進、訓練行事の効率化を図りたいと考えている。

Q 県北庁舎農村整備課撤退見直しとは。

A 北庁舎組織見直しで県から説明を先日中にあり、農村整備課他を集約撤退し村山総合支庁へと検討するといわれ、今、経営体育成基盤整備事業が6地区で40億円の事業が進行中に検討見直しは非常に困っていると伝えている。農村整備課は必要であり、継続されるように申し上げた。



産業廃棄物処分場周辺の環境整備について 茨木久彌 議員

Q 平成18年に県で創設した山形県産業廃棄物税は現在かなりの額が県に納付されていると思うが、最終処分場を有する村山市に対し税の還元及び処分場周辺の環境整備に対する県の方針は。

A 最終処分場を有する市として米沢市と共に県市長会を通して税の還元を要望して来たが、税として交付はならなかったが、県の新規事業として「最終処分場環境整備事業」と言う支援事業が創設になったので村山市の一般廃棄物協賛事業と合せて周辺の整備に力を入れていく。

Q 県の新規事業は一步步前進であるが、支援予算規模においては満足出来るものではない。今後県に対し予算増額の要望は。

A 今回の新規事業により村山市は事業費の



産廃最終処分場「アシスト」

2分の1の一千万円、総事業二千万円の事業契約が出来ることになる。しかし更に支援体制の強化について県に働きかけていく。

Q 市内産業の中心であり経済、雇用の重要な役割を担っている工業界の振興と自社ブランドの開発は、業界の活性化及び村山市の活力にとって不可欠であると思うが、行政としての支援体制は。

A 古い歴史と高いレベルを持つ工業界は市にとって大変重要である。企業がドブツクを活用しながら大いに支援していきたい。

議会報告会開催!

とどけ!
市民の声

村山市議会初の試み

4/26~27

議会基本条例で定められた議会報告会が初めて開催されました。市内8地域において順番に開催いたします。

今回は、全議員を2班に分けて富本、西郷大久保、楯岡の4地区で開催いたしました。

議会報告会の内容は、23年度補正予算及び24年度一般会計、特別会計の予算概要を説明し、総務、文教厚生、産業建設の各常任委員会での審議内容を報告。他に請願、広域議会及び行政視察の報告をいたしました。

その後参加された市民の皆様から、質問やご意見をいただきました。

各地域とも市民の関心が深く、活発な議会報告会となりました。

報告会では、ご意見を参考に、今後の議会活動に反映させていきたいと思っております。

市民からの意見・要望とその対応

● 市政の合理化を。特に箱物の維持管理経費の削減を求む。

● 2割自治の現状は県内でもワースト2だ。人件費の抑制を図るべき。
● 旧西郷児童センターの管理と今後の活用について。

● ホームページのレベルアップと「市民の友」を読みごたえのあるものに。



● 保育園の民間委託について。

● 予備消防隊の必要性を感じる。また設置を望む。
● 雪押し場の雪割を3回してもらい、早く溶けた。
● 大久保の県道の消雪パイプがひび割れている。

市にお願いできないか。
● 河島山地区雪対策、特に道路の除雪と流雪溝の要望。

● 積雪地に合致した宅地の広さの重要性と、雪を想定した計画をすべき。
● 楯中跡地を宅地造成し

たが駅西口の宅地が完売していないのに売れるか。
● 防災無線の改修を要望。
● 高速道路が出来た時、きちんと舵取りしないと通過点になる。現状は。

【この13件につきましては執行部に対し報告いたしました。】

● 議員は遠い市町村を視察するより県内の近い市町村を勉強すべき。
● 若い人が住みやすい村山市にして欲しい。

● 今後の議会報告会の開催計画は、議員の削減・報酬減はないか。
● 職場内のクールビズの徹底。
● 議員の各種事業及びボランティア活動への積極

的な参加を要望。

● 議員任期中の一般質問回数について。

【この6件につきましては議会に周知いたしました。】

● デマンド型交通とスクールバスの併用について。

【このことについては報告会で回答しています。】

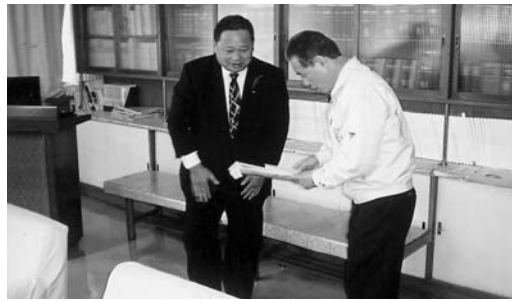


● 大久保小学校改築に関し、将来見越したビジョンがない。高い買物だ。
● 大久保小学校の改修について、他の地域の問題に口をつぐんでいる。自分の地域のことしか言わないのか。山ノ内小学校の二の舞である。安全面でもグラウンドが遠く、見えない。問題だ。

【この2件については、すでに地域と話し合い建設に向け進んでいるとのことで、報告、周知はしません。】

震災ガレキの調査。気仙沼市に!!

4月23日、市議会は東日本大震災で発生した、ガレキ・木材破砕現場の調査を行いました。搬入されている木材チップは、再生エネルギーとして、「やまがたグリーンパワー」の発電燃料として利用されています。調査にさきだち、能登議長から気仙沼市議会議長に要望書を渡しました。



要望書概要

「東日本大震災」による被害に対し、お見舞を申し上げますとともに、復旧・復興への尽力に対し、敬意を表すものです。

本市では、「ガレキ」処理について、他自治体に先駆け平成23年7月より受け入れを実施し、民間施設である「やまがたグ

リーンパワー(株)において、木質バイオマス発電燃料として利用しており、本年3月まで5千788トン受け入れております。

しかしながら受け入れを行うにあたり、周辺住民はもとより近隣の大石田町民に対しても説明会を実施し、不安の解消と受け入れへの理解を求めてきております。

「東日本大震災」からの復旧・復興には大量に発生した「震災ガレキ」処理が不可欠と思われ、本市では今年も受け入れを実施することから、御市におかれましても、「震災ガレキ」を搬出する場合、今後も定期的に放射線量を測定していただき、安心・安全に心がけていただくよう要望いたします。



▲木材ガレキの破砕機械で細かく碎きます



▲庁舎で説明を受けました



▲持参した測定器で放射線量を計っています



▲破砕された木材。この状態で村山市に搬入される。

開かれた議会を目指して

6月定例会において賛否の分れた議案についてのみ記載しました。

審議結果

議員名	議決結果	新市政クラブ							青風会		日本共産党 村山市議団		無会派			賛 成	反 対					
		井澤秋雄	長谷川元	長南誠	鈴木健治	大山正弘	秋葉新一	柴田好美	茨木久彌	海老名幸司	佐藤敏彦	布川淳一	佐藤昌昭	川田律子	中里芳之			森一弘	須藤和幸	能登淳一		
市 長 提 出	条例	村山市市税条例の一部を改正する条例について	可	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	×	×	○	○	議	13	2	
	算	平成24年度村山市一般会計補正予算(第2号)	可	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	×	×	○	○	議	13	2	
	算	平成24年度村山市国民健康保険事業特別会計補正予算(第1号)	可	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	×	×	○	○	議	13	2	
議員提出	発議	村山市の行う公契約に関する要望書	可	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	×	×	×	退	退	○	×	議	9	4

正副議長及び監査委員は会派に属しません。また議長は可否同数の場合以外は採決に加わりません。
 可=可決 否=否決 ○=賛成 ×=反対 欠=欠席 退=退席 議=議長

総務常任委員会行政視察報告

平成24年5月7日～9日



総務常任委員会は、5月7日から9日までの3日間、石川県羽咋市の限界集落脱却の総合的な戦略、福井県鯖江市の市民主役の条例の推進と今後のまちづくりに着目しての行政視察を行った。

石川県羽咋市は、能登半島に位置し、市の東部に広がる山地は人口減少と高齢化が進み、特に神子原地区は、最も高い高齢化率で、この地区を含む管池町は、65歳以上の人口の高齢化率は平成21年54%に達し、限界集落（高齢化率50%以上）となった。



このため、良質米のブランド化、空き農家と遊休農地をセットで貸与する「空き農家、農地情報バンク制度、実際にその地区に住んで、農作業に従事したり、地区行事にも参加する居住体験する「烏帽子（えぼし）親農家制度」などのほか、女性たちのアイデアによる直売所、人口衛星による農産物食味測定も手がけ、限界集落からの脱却に成功している。

鯖江市は、市民が主役のまちづくりを推進するため、市民に分かり易い市民提案型の条例が制定され、これに基づき市民主役条例推進委員会が中心となり、市と連携協定を締結し、まちづくりを進めている。

文教厚生常任委員会行政視察報告

平成24年5月8日～10日



去る5月8、9、10日の3日間文教厚生常任委員会では鳥取県へ行政視察を行った。日南町は鳥取県の10%を占める広大な山村で小学校8校分校8校・中学校7校をそれぞれ1校に統合している。

統合に際して段階的に進めたことや、小中一貫教育のメリットを最大限に生かす工夫を教育委員会のみならず、全庁あげて取り組んでいるのが印象的であった。又通学に際しての負担軽減策など課題も残っているようだ。米子市では介護予防対策並びに認知症



日南町統合した小学校を視察

早期発見プログラムについて研修した。65歳以上の全市民に対して日常生活圏域ニーズ調査というアンケートを実施し、認知症の疑いのある人を抽出し、かかりつけ医へ情報提供を行う事業で一定の効果を上げているようだった。

南部町では西伯病院にて木村医院長より研修を受けた。同町では5ccの血液でがんのリスクを測定できるアミノインデックス検査を40歳以上の全町民を対象に行っており全国からも注目を集めている。現状と今後の課題等詳細な説明を受けた。西部広域行政組合消防局では広域消防への移行について研修を受けた。財政的な優位性等がありつつも移行へは課題も多しと認識する研修だった。

産業建設常任委員会行政視察報告

平成24年5月16日～18日



秩父市みやのかわ商店街を視察

産業建設常任委員会は5月16日から18日にかけて埼玉県に行政視察に行ってきた。

【視察場所と内容】
①小鹿野町「道の駅両神温泉薬師の湯」
②横瀬町「道の駅果樹公園あしがくぼ」
③秩父市「みやのかわ商店街」買い物代行サービスと移動販売、ボランティア団体おたすけ隊「耕作放棄地の利活用」民間企業の利活用による農産物販売
④さいたま市「与野公園バラ園」⑤川越市「小江戸川越」プラザ発信による観光振興



川越市の蔵の街づくりは平成元年より始まった。

【視察の概要】 今回の視察の主な概要は、「農業と観光」「商店街振興」「農業への企業参入」などである。

合計4ヶ所の道の駅を視察し、農産物の産直所では繁盛している所と閑散としている所の格差があり、やはり経営者側の意欲が反映されると実感した。

また秩父市の商店街では、出張商店街や福祉サービスに乗り出すなど異業種参入がキーポイントだと感じた。川越市では、蔵の街づくりに行政と民間が協同で取り組んでいる姿勢を拝見し感銘を受けた。

市民の声



手づくりパンNOUKA
佐藤 郁実さん (大久保)

手 づくりパンNOUKAでは国産の小麦をはじめ、なるべく地元の食材を多く使ったパンやジャムを販売しています。

大切なのは作った人の顔が見える事。自分達の作ったパンや



お菓子は全て自分達の手で販売しています。当たり前のような事ですが、日々の生活の中でどれ程のものが作り手の顔を思い浮かべる事が出来るでしょうか？

私達は、この思いを大切にしたいと考え、昨年から「作った人が売る人」というコンセプトのフリーマーケット、「縁側ごろつき市」を始めました。品物を一番理解し語れる作り手が販



売する事で、どのような思いで作られたのかを買い手は聞きながら購入する事が出来ます。それにより、「縁側ごろつき市」では物や人に対する理解を深める事が出来ます。なにより売り手との会話は楽しいものです。

今回は6月10日に最上徳内記念館にて開催し、沢山の方に来場して頂きました。今秋も開催する予定ですので、ぜひ遊びにいらしてみてください。



ぎがいうオツテン

文教厚生常任委員会

当委員会の所管する課は、保健課、福祉事務所、消防本部、消防署、教育委員会、学校教育課、生涯学習課となっています。

村山市の子育て福祉医療と教育や、安心安全に関わる部署が多く、審査内容も多岐に渡ります。慎重な審議が必要になるため、調査研究の時間も必要とされており、閉会中も継続して活動しております。

委員長 長南 誠 副委員長 長谷川 元
委員 須藤 和幸 委員 海老名幸司
委員 川田 律子

がんばれモンテディオ!

去る6月2日、県総合運動公園で行われたモンテディオ山形村山市応援デーに村山市議会でも多数応援に行って参りました。ガイナレ鳥取に5-1で快勝しました。その後も健闘が続いているようです。皆んなで応援しましょう。

がんばれ!モンテディオ!



議会の傍聴へお気軽においでください

議会は一般に公開され、どなたでも傍聴することができますので、お気軽においで下さい。

6月議会の傍聴者は、18名でした。◎市のホームページに「会議録」を掲載しています。

<http://www.city.murayama.lg.jp/O530gikaizimukyoku/index.html>
ぜひご覧ください。

あとがき

2年続きの豪雪、追い打ちをかけた春の暴風。そして、心配された村山市管内のサクランボの不作。4月、入学式の窓越しに降る雪を眺めながら不安がよぎったが、自然の脅威の前に私達はなすすべもないのか。これからのスイカを始め野菜や果樹、そして秋の実りに期待したい。

(川田律子)

議会だより編集委員会

委員長 須藤 和幸
副委員長 井澤 秋雄
委員 秋葉 新一
委員 川田 律子
委員 長南 誠
委員 布川 淳一
委員 長谷川 元